Energia

# 報 道 資 料

平成18年3月7日
中国電力株式会社

## 島根原子力発電所2号機定期検査中の炉心増倍率測定試験時に発生した不具合の調査結果について

島根原子力発電所2号機（沸騰水型，定格電気出力82万キロワット）は，第13回定期検査のため2月28日6時17分に制御棒を全挿入しましたが，その後，試験のため制御棒の一部を引き抜き原子炉の炉心増倍率測定試験※1を行っていたところ，3月1日7時53分「IRM（中間領域計装）※2異常高」の信号により，引き抜いていた制御棒10本が自動で全挿入されました。

（3月1日お知らせ済）

調査の結果，炉心増倍率測定試験時にIRM異常高の信号を発信する原因となりうる異常は認められませんでした。中性子検出器については過去の不具合事例として，検出器の内部で発生した局部的な放電現象によって，一時的に電流値が増加することが知られています。

また，放電後には，検出器は正常な状態に復帰することがあり，原因調査においては異常が認められなかったものと推定しました。

なお，念のため，当該IRM検出器を取り替えることとします。

以上

※1　炉心増倍率測定　　：炉心設計の妥当性等を確認するために実施するもの

※2　IRM（中間領域計装）　：原子炉の中性子計装の一種。原子炉の起動及び停止時の中性子束レベルを監視するもの

**関連リンク**

- 島根原子力発電所2号機 第13回定期検査の状況
- 原子力発電（環境@エネルギー）